

東京の情報化を推進するにはシンポジウム

教育の情報化を考える～とうきょうED研究会

<http://tokyo-ed.net/>



コーディネーター あきる野市立増戸中学校 紙澤 雅一
kamizawa@masuko-j.on.arena.ne.jp

パネリスト 東京都総合技術教育センター 榎本 竜二
HHC03246@nifty.ne.jp

横浜国立大学大学院修士課程 赫多久美子
kakumi@mxj.mesh.ne.jp

科学技術融合振興財団 湯澤 太郎
yuzawa@fost.or.jp

中央区立佃島小学校 広兼 東子
toko.h@d5.dion.ne.jp

墨田区立墨田中学校 三橋 秋彦
akihiko@a1.mbn.or.jp

大衆食の会 遠藤 哲夫
ya-endo@nifty.com

キーワード：教育の情報化，学校の情報化，情報教育，教科「情報」

とうきょうED（えど）研究会は、東京の公立校の教育の情報化を支援する、教員と社会人ボランティアのネットワークである。メーリングリストや研究会を通じて約200名程度が集い、活動している。財団法人コンピュータ教育開発センターの平成13年度Eスクエア事業として、総合的な学習の時間での社会人講師授業実践を映像データバンクとするプロジェクトを実施し、WEBサイトを運営している。

今回は、小校・中学校・高等学校・特殊教育のそれぞれの立場で教育の情報化に取り組んでいる教員と、それを支援する社会人ボランティアが、東京の教育の情報化の「いま」を本音で語るシンポジウム形式の発表を行う。

以下、今の発表の背景となる、平成14年度夏・冬2回に渡って開催した研究会の内容を掲載する。

1. 平成14年度夏の研究会

(1) 日時 2002年 8月24日(土) 14:00～17:00

(2) 場所 東京国際フォーラムG605会議室

(3) 内容

講演とパネルディスカッション、事例報告から社会人講師まで登場する盛りだくさんのプログラムで、定員ぎりの参加者が会議室に溢れる熱気を帯びた研究会となった。

最初に、メディア心理学と教育工学の立場から坂元章氏（お茶の水女子大学）に「情報化の光と影」と題する講演をお願いした。コンピュータやインターネットは便利であると同時に危険性も持つ道具であって、影の部分に配慮しつつも光の部分積極的に教育に利用してゆこうという、まさに全体の基調となる内容であった。

次に、榎本竜二氏（東京都総合技術教育センター）をコーディネーターとする「学校の情報化を推進するには」パネルディスカッションが行われた。教育の情報化を担う教員はもちろん、専門学校学生や教育関連の出版社やソフトウェア、商社など教員以外の人間が多く参加する異色のパネルとなった。

「私を情報化に否定的な某教育委員会の人間と思って、説得してください」（コーディネーター）という言葉で、本音が飛び交う活発なディスカッションが展開した。

「いろいろな学校にコンピュータ室を入れた本人がいうのもなんですが、あまり授業ができるような教室ではないんじゃないかと。」（元外郭団体職員）

「教員の問題もあるんですね。うちの学校に入れられると問題が発生するからいらぬという学校がまだあるんですよ。つまり光も影もわかっていないということなんです。」（高校教員）

「管理者はやっぱり教員であってはいけません。教員というのは、あくまでも授業のコーディネーターなので、授業に専念させるべき環境を整えなくてはならない。」（中学教員）

会場からも体験や実践に基づいた様々な発言があり議論はつきなかつたが、「東京都の情報化は、みんなで盛り上げていかないと足踏みしてしまう。東京とはあまりにも規模が大きくて、やらなくてもなんとかなっちゃう。横のつながりで情

報交換して、みんなで盛り上げていきましょう。」(コーディネーター)とまとめた。

続いて、自ら学校専用のグループウェアを開発して利用している石出勉氏(台東区立桜橋中学校)がプリンタ共有からグループウェア導入まで学校の情報化の体験を発表し、さらに、鈴木二正氏(慶応義塾幼稚舎)がIPv6を使った先進的な情報教育の実践事例を発表した。書類の共有から少しずつネットワークを浸透させてゆく生々しい体験談と、高度な技術で遠隔授業を実現する試みという対照的な報告となり、興味深かった。

最後に、総合的な学習の時間での社会人講師プロジェクトに関連した2つの実践事例報告があった。竹内利明氏(多摩起業家フォーラム)から、昨年度にも増して充実した、起業家教育の側面からの社会人講師授業の実践を報告していただいた。また、遠藤哲夫氏(大衆食の会)には社会人講師として「なぜ大衆食堂なのか 1970年代からの情報化と食事」として、得意分野の食の分野から情報化を語っていただいた。

全体として、教育の情報化を支える様々な分野の人々が集い、様々に本音で情報交換ができ、有益であった、という声が多く聞かれた。

2. 平成14年度冬の研究会

(1) 日時 2003年 1月 7日(金) 13:00~17:00

(2) 場所 東京都総合技術教育センター

(3) 内容

今回の研究会は、東京都の教育の情報化の中核を担う、東京都総合技術教育センターの見学と、「教育の情報化」シンポジウムの2本立てとして企画した。

センター責任者の方の挨拶とVTRによる施設説明を視聴した後、全員でセンターの設備を見学した。総合技術教育センターは、総合的にシステム化した実習設備や各学校に設置することが困難な最新設備を設置し、生徒実習と教職員研修を2つの柱にした、高等学校向けの施設である。「機械・生産」「電気・制御」「バイオ・化学」「情報」の4つのシステムを学べる設備を、それぞれ見学させていただいた。榎本竜二氏(東京都総合技術教育センター)の解説で、特に情報教育をめぐる研修の現状や問題点がよくわかり、興味深い体験となった。

次に、紙澤雅一氏(あきる野市増戸中学校)をコーディネーターとする「教育の情報化」シンポジウムが行われた。小学校・中学校・高等学校のそれぞれの現場で情報化の第一線にいる教員と教育工学の研究者という、あまり例のない幅広い討論者が一同に会した。

それぞれの教育の情報化への関わりをたずねた上で、教育の情報化を推進する方策を尋ねるコーディネーターに対して、「コンピュータサイエンスや技術面ばかりが強調されるが、情報デザインの側面が不可欠。」(小学校教員)

「毎年カリキュラムをチャレンジしながら変えている。悩みながらだが、情報はそういう取り組み方しかないのではないか。」(高校教員)

「機械の操作のような移り変わる情報ではなく、できるだけ長い間変わらず役に立つ研究成果を提供したい。教師にとって重要な活動を通して、情報の役割をアピールしてゆく必要があるのではないか。」(研究者)

というような様々な意見が出された。全体として、「教員は転勤がつきもので、管理などがどう引き継がれるかがすごく問題。現状は使われなくなってしまうことも多い。」「地域差などがかなりあり、なにをどこまで教えるかガイドラインもない。」というような問題点が明らかになると同時に、「情報については、教員が自ら進んで考えないと何もできない。そこが他の教科等と違う」と模索しながらも前向きに取り組む姿勢が共通しているのは、頼もしく思えた。

本題と離れて観点別評価の話題が出され、それも「評価も情報の1つだから、生徒が見てどうしたらよいかかわからない、意味のない情報を提供してもしようがない。」と情報と結びつけて議論されるなど、興味深い議論となった。教員以外の参加者にも「教育の情報化」「学校の情報化」「教科「情報」」をめぐる諸問題に触れる大変有意義な機会となった。

とうきょうED研究会に参加するには

とうきょうED(えど)研究会では、地域・立場を問わず、教育の情報化を推進する活動に興味のある方の参加をお待ちしております。教育の情報化をめぐる様々な議論と同時に、研究会や授業実践、研究協議、様々なイベントの案内を、メーリングリストにて行いますのでぜひご参加ください。

メーリングリスト【Tokyo-School】:

管理者・三橋秋彦 akihiko@al.mbn.or.jpまでお問い合わせください。

連絡先【とうきょうED研究会】:

事務局・湯澤太郎

〒223-0062 横浜市港北区日吉本町1-4-24 FOST内

Tel. 045-562-5432 Fax. 045-562-6132 e-mail. yuzawa@fost.or.jp
